

《キーワード》 糖尿病 歯周病 骨代謝 分子生物学 RNA サイトカイン エクソソーム

《担当者名》 教授 / 高橋 伸彦 (ntkhs@)

【概要】

歯科診療の現場において、最も身近に接する全身疾患のひとつに糖尿病がある。さらに糖尿病は歯周病との相互作用がよく知られている。また、糖尿病腎症の患者ではNSAIDsや抗菌薬の使用に際して注意を要することや、糖尿病患者は動脈硬化症を合併しやすいため抗血栓薬を服用していることなど、歯科臨床とも密接にかかわっている。本特論ではそのような糖尿病の病態と歯科領域（歯周病や骨代謝など）とのかかわりについて、分子レベルで理解を深めることを目的とする。具体的には、関連する英語論文の検索や精読を通じて、何がどこまでわかっているのか/わからないのかを調べ上げ、さらに課題点を検証するためにはどのような実験系が必要なのか議論を行う。このような作業を通じて、全身を分子レベルで診る方法の一端に触れる。

【学修目標】

1. 糖代謝と歯周病や骨代謝との関連について、最新の分子メカニズムを説明できる。
2. 文献の精読を通じて、新たな研究課題を設定できる。
3. 課題を解決するための基礎的な実験系について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 3	糖代謝と歯周病や骨代謝との関連について調べ、発表する	1) 文献の検索方法 2) 文献の精読 3) ディスカッション	高橋 伸彦
4) 7	糖代謝と歯周病や骨代謝との関連について、今後、明らかにすべき課題を設定する	1) 文献の精読 2) ディスカッション	高橋 伸彦
8) 10	課題の解決方法（特に分子生物学的手法を用いた方法）を議論し、発表する	1) 発表とディスカッション	高橋 伸彦

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、ディスカッションやフ ィードバックの内容

【教科書】

「その他」：研究論文やプリントを適宜、配布する

【備考】

学生が主体的に学ぶ姿勢を重視する。

【学修の準備】

課題の設定については、その時点で最新の情報をもとに行う。
自己の研究課題について国内外の文献を検索し、その内容を検討する。
課題の解決に必要な理論や方法論について学習する。

【実務経験】

高橋 伸彦（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

内科医としての実務経験を活かし、疾患の病態生理を分子メカニズムから考察し、基礎研究の推進に役立つ講義と議論を行う。